

藤沢市における「遊行の盆」

—踊り念仏から生まれた創作盆踊りをめぐって—

石井 愛

「遊行の盆」は、藤沢市（神奈川県）の商工会議所を主催とする盆踊りイベントである。2006年7月に第1回を開催、去年2008年に3回目を迎えた。本論文の目的はその文化的意義を明らかにすることである。開催の中心となった遊行寺は、鎌倉時代に一遍が開いた時宗の総本山である。「遊行の盆」は、一遍の踊った踊り念仏が現代の盆踊りのルーツではないかということに着目し、藤沢発の新しい盆踊りを創作し、街の活性化を図ろうという主旨をもつ。「遊行の盆」関連の資料、映像資料、筆者による調査、藤沢商工会議所をはじめ6人の方へのインタビューをもとに、市民がどのように地域や芸能と関わりながら自分たちの手で藤沢の文化を育もうとしているのかという視点に立ち、分析を試みた。

本論文は4章から成る。第1章で藤沢の歴史を概観し、第2章では藤沢と踊り念仏との関係に迫った。第3章では「遊行の盆」の開催を年度ごとに詳細に記述した。それを踏まえ、第4章で「遊行の盆」を比較表に整理し分析した結果、毎年会場・プログラム内容に変化を加えることで、参加者も2008年には約5万人にのぼり、メインとなる藤沢発の創作盆踊りも多くの市民に踊られてきているという喜ばしい傾向がある。その一方で、参加者の増大を目的とし、地域活性化のイベントに徐々に傾くことで、藤沢の歴史的な側面（踊り念仏や藤沢の伝統系の踊り、遊行寺についてなど）には焦点があたりず、「遊行の盆」の核が揺らぎつつあるという問題点が挙げられた。長く地域コミュニティーに愛され、藤沢の文化を育むイベントであってほしい。そこで、歴史的な側面をアピールするため遊行寺という空間を有効に活用すること、藤沢発の創作盆踊りの広め方の工夫、イベントの広報（年齢の幅や地区を超えた市民、また市外へのPR）や全国から招致している盆踊りとの交流を提案し、「遊行の盆」の方向性を示した。